



独立行政法人国立病院機構 榊原病院
National Hospital Organization SAKAKIBARA Hospital

院長

鬼塚 俊明(おにつか としあき)

略歴

1991年 九州大学医学部卒、九州大学精神科神経科入局
2000年 米国ハーバード大学医学部精神科研究員
2004年 九州大学病院精神科神経科助教
2008年 九州大学病院精神科神経科講師
2015年 九州大学大学院医学研究院精神病態医学(精神科神経科)准教授
2021年 九州大学大学院医学研究院神経画像解析学教授



診療科

- ・ 一般精神科
- ・ アルコール・薬物依存症
- ・ 専門外来
- ・ こころのリスク外来

病床数 175床

- ・ 精神科病棟 157床
- ・ 医療観察法 18床
- ・ 強度行動障害ユニット

病院理念 この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である

新年のご挨拶と抱負

院長 鬼塚 俊明

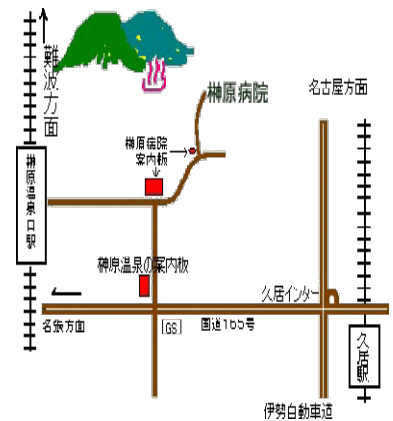
明けましておめでとうございます。本年も榊原病院をどうぞよろしくお願いいたします。

私たちは今年、患者の皆様にもさらなる質の高い医療を提供することを目標に、個別性を重視した精神医療を一層推進してまいります。精神科医療においては、一人ひとりの患者さんの背景やニーズに寄り添うことが不可欠です。これを実現するためには、患者さんを支える職員自身の心身の健康も重要であり、働きやすく、充実した職場環境の整備に引き続き取り組んでいきます。

当院は、一般精神科医療をはじめ、依存症、強度行動障害、難治性統合失調症、認知症、児童思春期のケア、精神鑑定、医療観察法など幅広い分野に対応しています。これらの治療を通じて、地域の中核的な精神科医療機関としての役割を果たしつつ、患者さんが気軽に相談しやすい環境づくりも目指しています。メンタルヘルスに関する悩みを抱える方々が安心して受診できる病院であり続けるため、職員一同、全力で取り組んでまいります。

また、当院は医療機関としてだけでなく、研究機関としての役割にも注力しています。新たな疾患概念の提唱、精神科医療における客観的診断法の確立、治療ガイドラインの普及に関する研究、さらには精神疾患データベースへの貢献を目指した取り組みを進めています。本年はこれらの成果を積極的に社会に発信し、精神科医療全体の発展に寄与していきたいと考えております。

最後に、地域に根ざした医療を提供し、精神科医療の未来を切り拓くことは、榊原病院の使命です。今年も優秀なスタッフとともに、皆さまの心の健康を支えるために一層努力してまいります。引き続き、榊原病院へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



電車・バス / 近鉄久居駅下車 三交バス (車庫前行き) 約30分

自動車 / 久居インターより約20分

マイクロバス / 久居駅より直通バス(約25分)



地域医療連携室だより

〈医療福祉相談のご案内〉

経済的な心配、福祉サービスの利用、退院後の生活など病気によって生じた生活上の困り事について、精神保健福祉士がご相談に応じます。相談をご希望の方は、主治医、看護師及び医事受付まで申し出てください。

ゆうはあと訪問看護ステーション

令和元年6月に「ゆうはあと訪問看護ステーション」を開業しました。利用者様が地域で安心して暮らしていただけることを目標として訪問看護を提供しています。症状の観察や相談・お薬の管理・通院継続の支援・対人関係・コミュニケーションへの支援など、心身の回復のお手伝いを目的として行っています。

私たち「ゆうはあと」は、あなたの療養、そして暮らしを支えます。少しでも豊かに、少しずつ豊かになりますようにここで支えます。



治療抵抗性精神疾患への医療

〈クロザピンの治療状況〉

治療抵抗性統合失調症に対して、平成26年10月に1例目の投与を開始し、令和6年12月までに全症例は167例となりました。新規導入は12月は0例でした。順次投与を開始する予定です。クロザピン通院専門外来も開設しております。

認知症医療、こころのリスク外来

〈認知症医療〉

認知症の患者様は高齢であることから、様々な合併症をお持ちの方が多くおられます。また、アルコール問題の後に認知機能が低下することや、さらに身体疾患に併発した認知機能の障害は、若年の方にも見られます。

したがって、現在は80歳以上の超高齢の方と50～60代の若年の方に認知症が発症する傾向が多く見られます。身体的な問題については、法人内病院である三重中央医療センターと連携を図りながら、幻覚や妄想、不穏など認知症の周辺症状（BPSD）に対応しています。一般病院や介護施設において、BPSDの問題でお困りの場合はご相談ください。

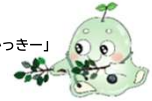
〈こころのリスク外来〉

思春期・青年期はこころのリスク状態が高まり、さまざまなこころの病気を発症しやすいと言われていています。当外来はこころのリスク状態を早期に発見・治療していくための専門外来ですので、お気軽にご相談ください。



デイ・ケア案内

病院マスコットキャラクター「さかっちゃん」



あけましておめでとうございます。本年もよろしく申し上げます。

デイケアは、南2階で月、火、水、金の9:30から15:30まで活動しています。皆さまそれぞれの目標に合わせて、生活リズムを整えたり、仕事や作業に通う体力を獲得したり、リフレッシュしたりと、活動に取り組んでおられます。

デイケアを利用される方は、1日あたり10人～20人です。ホールで過ごすことも、静かな個室で過ごすこともできます。

1月は射山神社まで初詣散歩に行きます。そのほか月1回の喫茶、調理や、アート、スポーツ、カラオケ、SST等、様々なプログラムがあります。病院のホームページや、外来に月間プログラム表がありますので、どうぞご覧ください。



メンバーが共同制作したカレンダーです。おめでたい七福神を飾っています。



こちらはメンバーが飾りつけたケーキです。

ホームページに「デイケアでの感染予防プログラムの学びと実践の取り組みについて」を掲載しています。



デイケア案内、プログラム表については、こちらをご覧ください。



栄養コラム

七草粥で今年も健康に！

『せり、なずな、ごぎょう、はこべら、ほとけのざ、すずな、すずしろ、これぞ七草。』

春の七草は、日本の伝統的な風習で、1月7日の「人日の節句」に七草粥を食べる習慣があります。

この風習は、中国の古典に由来し、奈良時代に日本に伝わりました。平安時代には、七草粥の作り方や効能が記され、現在の七草粥を食べる習慣の基礎となりました。七草粥は、冬の間に不足しがちな栄養素を補い、正月のごちそうで疲れた胃腸を休める効果があります。現代でも、スーパーで七草セットやレトルト商品が販売されているため、手軽に楽しむことができます。

春の七草以外にも、日本には食にまつわる行事が沢山あります。季節の移り変わりを感じつつ、日本の伝統行事を楽しんでみてはいかがでしょうか。